

(様式2)

学校関係者評価報告書

東予高等学校

学校番号(12)

評価実施日	令和5年3月2日(木)		
委員	役	職	備考
	学校評議員	5名	
	学校関係者評価委員	3名	

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
<p>1 今年度の評価について</p> <p>(1) 学習指導 全体的な学校行事などの運営、各教科の先生方の取組が、工業系高校の特色を生かして、確実な教育目標を達成しようとしているところが素晴らしい。先生方の思いと生徒の感じる評価に少し差があるのはなぜか。</p> <p>(2) 生徒指導 登下校などの交通ルールやマナーが適切に守られている。自転車走行について、防犯、少年補導関係者の評価も良い。服装や髪型は高校生として望ましい。あいさつがしっかりできている。</p> <p>(3) 進路指導 ここ近年、就職率がほぼ100%に近いことは、教職員学校評価を見ても積極的な指導と活動が効果を上げていることでよく理解できる。工業系の高校であること、ほとんどの生徒が進路や検定取得した中で目標がはっきりしているのが強みと言える。</p> <p>(4) 特活 機械部や弓道部など、四国大会や全国大会での活躍につながる指導ができている。学校全体や、地域への良い刺激になっている。</p> <p>(5) その他 学校訪問をする度に、ゴミ1つ落ちていない美しい校内で、清掃ができている。先生方の資格取得の専門指導が充実していて、毎年多くの生徒が内外で賞をとり、成果を上げている。生徒、保護者、教職員の常日頃からの連携がもう少しあれば良いのではないか。</p>	<p>・教職員は、生徒の理解度を把握し、わかる授業の実践に努めている。ICT教育が進む中で、生徒が自ら学びに向かう姿勢を養えるよう、多様な生徒に応じた学習方法の構築に努める。</p> <p>・命の大切さを理解させ、登下校時におけるマナーアップに努めさせる。また、高校生らしい身だしなみが習慣化できるよう、一貫した指導を行う。</p> <p>・個々の進路目標に応じた進路指導の徹底を図り、進路実現に努める。 ・就職活動支援員の配置を要望し、職場開拓と就職指導の一層の充実を図る。</p> <p>・引き続き、高い目標を掲げて部活動や生徒会活動に地道に取り組むとともに、広報活動にも積極的に取り組む。</p> <p>・今年度の学校行事においては、参加者を限定したり、人数制限を設けたりしたものが多かった。来年度は、新型コロナウイルス感染症の動向にもよるが、できるだけ多くの行事について保護者や地域の方々を御案内し、学校と地域との連携を深めていく。</p>

<p>2 重点目標について 「思いやりの心」を育み「たくましく生きる力」を培うという、生徒と共に向上していこうとする精神面を重視している点が評価できる。重点目標は人間としての基本的で大切な目標に設定している。</p> <p>3 説明・公表について ホームページは情報発信の重要な役割を担っているので、今後も更に内容を充実させて取り組んで欲しい。実習など地域企業との連携が熱心で、地域へ貢献できる人材育成に力を入れている。個人情報の保護には守秘義務に丁寧な対応をお願いしたい。</p> <p>4 学校運営への提言 教育目標「1教育方針」(3)について、「国家社会及び地域社会」に修正した方がよいのではないか。理由としては、国全体として人口減少が進む中、地域産業の担い手としての自覚も醸成して欲しいため。 工業高校という立場で専門課程がはっきりしていて、目標、マニフェスト、評価を統計で捉えがちであるが、ひとりひとりの生徒の内容分析を細やかに親身に行うことにより、心情的な対応と指導ができて、更に成果が上がるのではないかと期待している。</p> <p>5 その他 式典、文化祭、運動会、参観公開授業等の学校行事について、コロナ禍で慎重に実施し、コロナ感染予防、保健対応など厳しい状況の中で運営している。目に見えない先生方の努力を感じる。アンケート結果では教職員互いの協力体制%が低いですが、そんなことはないのではないか。先生方の自己評価が厳しすぎるのではないかと。</p>	<p>•態度教育の充実を図り、職業人として必要な資質、態度を育てていく。</p> <p>•ホームページの更新回数を増やし、閲覧回数を増やす。YouTubeでの動画の配信についても、公開数を増やしていく。なお、個人情報や肖像権等について、丁寧な対応を行う。</p> <p>•教育目標について、御意見を参考にして検討を行う。</p> <p>•学校評価アンケートや授業評価アンケートの結果について、気になる回答については関係者で結果を共有し、あらゆる角度から生徒の支援ができるよう努める。</p> <p>•コロナ禍で、教職員の親睦を図るような機会も減少している。教職員相互、あるいはPTAや他校との交流の機会を増やし、教職員のワークライフバランスの向上にも目を配った学校運営に努める。</p>
---	---